

考 査 項 目	対 応 事 項	【事例】具体的な施工条件等への対応事例
4. 工事特性	<p>施工条件等への対応</p> <p>Ⅲ 厳しい自然・地盤条件への対応</p> <p><input type="checkbox"/> 11. 特殊な地盤条件への対応が必要な工事</p> <p><input type="checkbox"/> 12. 雨・雪・風・気温・波浪等の自然条件の影響が大きな工事</p> <p><input type="checkbox"/> 13. 急峻な地形及び土石流危険渓流内での工事</p> <p><input type="checkbox"/> 14. 動植物等の自然環境の保全に特に配慮しなければならない工事</p> <p><input type="checkbox"/> 15. その他</p> <p>理由：</p> <p>※上記の対応事例に1つ以上レ点が付けば3点の加点とする。</p> <p>Ⅳ 長期工事における安全確保への対応</p> <p><input type="checkbox"/> # 12ヶ月以上超える工期で、事故がなく完成した工事 (全面一時中止期間は除く)</p> <p>※但し、文書注意に至らなかった事故は除く。</p> <p><input type="checkbox"/> # その他</p> <p>※上記の対応事例に1つ以上レ点が付けば5点の加点とする。</p>	<p>(1. について)</p> <p>(11. について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川内の橋脚工事において地下水位が高く、ウェルポイント工法などによる排水や大規模な山留めなどが必要な工事。 ・支持地盤の形状が複雑なため、深礎杭基礎毎に地質調査を実施するなど支持地盤を確認しながら再設計した工事。 ・施工不可能日が多いことから、施工機械の稼働率や台数などを的確に把握する必要が生じた工事。 <p>(12. について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海岸、港湾又は河川区域内のため、設計書で計上する以上に波浪等の影響で不稼働日が多く、主に作業船や台船を使用する工事。 ・潜水夫を多用した工事又は波浪や水位変動が大きいため作業構台等を設置した工事。 <p>(13. について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急峻な地形のため、作業構台や作業床の設置が制限される工事。もしくは、命綱を使用する必要があった工事（法面工は除く）。 ・斜面上又は急峻な地形直下での工事のため、工事に伴う地滑り防止対策等の安全対策を必要とした工事。 ・土石流危険渓流に指定された区域内における工事（原則本堤工事の掘削工事のみとし、流路工は除く） <p>(14. について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イヌワシ等の猛禽類などの貴重な動植物への配慮のため、工程や施工方法に制約を受けた工事 <p>(15. について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他、自然条件又は地盤条件への対応が特に必要であった工事。 ・その他、災害等における臨機の措置のうち特に評価すべき事項が認められる工事。 <p>・当初契約工期が対象。（ただし、12ヶ月以内に完成通知が提出された場合は評価しない。）</p> <p>・現場条件の変化があり迅速に対応したにもかかわらず、工期が12ヶ月以上（部分中止期間を含む）となった場合は評価する。</p>
記述評価 (レマークを付した 評価内容を詳細記 述)	<p>評 点： _____ 点</p>	<p>【工事特性の詳細評価】</p>

※1. 工事特性は、最大16点の加点評価とする。

※2 「5. 創意工夫」との二重評価は行わない。